

ゼミナール紹介

担当者名	石井健一
e-mail アドレス	ishiiken@bunkyo.ac.jp
研究室	3315
在室曜日・時限	火曜 4, 木曜 3 など(予約必要)
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	マーケティング・リサーチ、マーケティング・リサーチ演習 現代社会の消費者行動
2026 年度担当科目	情報と社会、マーケティング(上記以外)
授業概要	消費者行動に関する研究論文を読み、自分の研究テーマを考え、調査を企画してデータを収集し、仮説を統計的に検証するということを2年間で行います。

ゼミナール紹介

担当者名	大橋 洸太郎
e-mail アドレス	kohashi@bunkyo.ac.jp
研究室	5 号館 4 階 5406 研究室
在室曜日・時限	火曜日 3 限
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	リサーチデータの分析と見方、調査集計法 A、調査集計法 B、統計学概論、情報学序論（第 3 部）、テキストマイニング、その他データ解析に関連する科目
2026 年度担当科目	アカデミックリテラシー、テキストマイニング、調査集計法 A、調査集計法 B、情報学序論（第 3 部）、プロジェクトマネジメント演習、情報社会の分析と理解、情報社会のサービス企画、統計学概論、文教大学への招待（1 回）、学外実習、ゼミナール、卒業研究
授業概要	本ゼミナールでは、データ分析を行うことを主眼に置いています。データを取得し、まとめ、その内容の重要なポイントを読み取り、分かりやすく相手に伝える、そのような力が得られるようにしたいと思います。 本ゼミナールでは、以下の 2 つの目的を持っています。 ① データサイエンス分野の分析手法の習得 ② 理論に基づいた調査の体験 春学期には、マーケティング、WEB 調査の最前線にある調査会社と産学連携し、論文探索に基づいた調査仮説、質問文を作成します。これまで、「若者の離職率と孤独感の関係」や「一人暮らしの際に両親は子供に TV を買おうかと尋ねるか」「サブスクリプションサービスの契約解除忘れの実態」といったゼミ生達の発案による調査テーマを作成し、実際に調査会社の審査を経て、調査をしました。 秋学期には、調査したデータを分析していきます。Excel、jamovi、R、Python、KH Coder などの中から各自が扱うことができるツールを選び、データに基づいた調査仮説の検証を行っていききたいと思います。また、最終的には学外に発表の場を設け、春学期の調査計画から秋学期の分析結果までを発表し、ゼミナールの成果としたいと考えています。 来年度も同様に、<u>ゼミナールの皆でどのようなテーマ考え、調査する意義のあるテーマを探し、実査、分析、成果発表をしたい</u>と思います。魅力的な調査から生まれるデータの取得を、共にデザインしていきましょう。学科を問わず、この授業概要に興味を持った方をこれまでも受け入れてきましたし、これからも歓迎します。

ゼミナール紹介

担当者名	佐久間勲
e-mail アドレス	isao@bunkyo.ac.jp
研究室	3313 研究室
在室曜日・時限	原則として火曜日昼休みと 4 限、水曜日昼休み、金曜日 1 限と昼休み ※研究室の web サイト(https://w.atwiki.jp/isakuma/)を確認してから来るようにしてください。必ずしも予約は必要ありませんが、不在にすることもあります。
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	社会心理学、統計及び調査集計に関連する科目
2026 年度担当科目	意思決定の心理学、社会調査演習Ⅰ・Ⅱ、数理統計学入門、数理統計学 A・B
授業概要	本ゼミナールは、経験的証拠である「データ」と理論的根拠である「社会科学の理論」を元に、社会現象を説明できる能力を育成することを大きな目標とします。ここでいう「社会科学の理論」は、担当教員の専門である社会心理学はもちろんのこと、社会学、コミュニケーション論、行動経済学なども含みます。単にデータを収集し分析するだけではなく、社会科学の理論と関連づけた上で、データ分析の結果を解釈できる能力を育成します。 本ゼミナール内での具体的な活動は以下の 4 つになります。 (1) データの収集と分析に関する手法の学習：テキストや論文を講読しながら、データの集め方と分析の手法を学びます。データの分析には jamovi を使う予定です。 (2) データ分析の実習：こちらが用意したデータを元に、分析の目的を考えて、実際にデータを分析し、その結果をまとめて発表してもらいます。 (3) 個人研究：各自の関心に基づきテーマをひとつ決めてデータの収集し、それらをまとめたものをゼミナールで発表してもらいます。過去のテーマ例は、「新型コロナウイルスが心理的側面に及ぼす影響に及ぼす影響」「ジェンダーフリー時代の女兒向けアニメの内容分析」「ヒット曲の歌詞のテキストマイニング」などが挙げられます。個人研究を通して、社会科学の研究内容はもちろんのこと、研究方法、研究論文の書き方についても理解を深め、4 年次の卒業研究に結びつけます。 (4) 卒業研究のテーマの検討：4 年時に取り組む卒業研究のテーマを検討します。目的に沿ってデータ（自分で収集しても既存のデータを使用してもどちらでも構わない）を分析し、分析結果を社会科学の理論と関連づけて考察するタイプの研究が望ましいです。研究テーマなどはゼミナール内での議論や担当教員と個別に相談の上、決めます。

ゼミナール紹介

担当者名	佐藤 孝司
e-mail アドレス	satotakashi@bunkyo.ac.jp
研究室	3 4 1 3
在室曜日・時限	火 1, 2、水(第 1, 5)3, 4, 5、木 3 （面談は事前にメールで問い合わせ願います）
個別相談など （日時・方法）	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	主に下記に記載のある IT・情報システムに関する科目を受講していることが望ましい
2026 年度担当科目	システム開発技法、システム設計、情報サービス産業の理解、情報処理の基礎知識、プログラミング入門、プログラミング演習 C、情報処理実践演習 A/C、プロジェクトマネジメント演習Ⅱ、ゼミナールⅠ／Ⅱ、卒業研究Ⅰ／Ⅱ
授業概要	情報システムや IT に興味がある人や、将来 SE 職を希望している人に、現代の情報システムの課題と対策、あるべき姿を、以下のステップで研究します。 【ゼミナールⅠ／Ⅱ】 講義形式とグループ議論により、現代の情報システムの特徴と課題について幅広い領域で理解し考察します。 卒業研究のテーマについて調査と発表を繰り返します。 加えて、プレゼンの資料作成や発表のスキルを身に着けます。 【卒業研究Ⅰ／Ⅱ】 ゼミナールⅠ／Ⅱで検討した卒業研究のテーマについて、さらに深掘して調査と研究を進めます。 特に研究テーマの領域を指定しません。 以下の領域の研究を薦める場合もあります。 - 高信頼性・高生産性のモダンシステム開発技法の研究 クラウドネイティブなモダン Web フレームワークを用いたシステム開発や AI モデルを含むシステム開発では、帰納的開発や探索的開発などの現代の開発現場で重視される手法が用いられますが、その信頼性や生産性向上の視点について研究します。 - 高信頼性を支えるモダン・ソフトウェア品質保証方式の研究 モダン Web システム開発や AI モデル開発などを高品質で開発するための開発技法と顧客価値向上を図るための品質管理方法について研究します。

ゼミナール紹介

担当者名	関 哲朗
e-mail アドレス	seki@bunkyo.ac.jp
研究室	3415
在室曜日・時限	火・水・木
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	データサイエンス学科の専門科目全般
2026 年度担当科目	数学入門, プロジェクトマネジメント, 同入門, アルゴリズムとデータ構造入門, 情報システム創成とデータサイエンス, プロジェクトマネジメント演習 I・II
授業概要	・春学期中に卒業研究のテーマを設定します。自分の興味がどこにあるのかを真面目に考えるためにも必要ですし、何よりも9月以降には始まる就職活動で説明必須となる大切なことです。 ・受講者の合意が得られれば、異なる学年の学生の相互乗り入れによる学習効果を期待してゼミナール及び卒業研究を合同で行います（水曜の午前中） ・テーマの例 ・DS 学科の専門科目の学習用動画を作成する（易） 好きなテーマは、「数学」「コンピュータの歴史」「人間愛と情報社会」とか ・数理統計学や応用統計学の既存の方法の検証や新しい方法を提案してみる ・真ん中（中心傾向）の性質を調べる（易） ・中心極限定理で本当に正規分布になるか調べてみる（易） ・正規分布以外の左右対称でない分布を調べてみる（やや難） ・t 検定は本当に役に立つのかを調べてみる（やや難） ・もっと大それたことをやってみる（何事も挑戦である） ・既に解決済みや未解決の数学などの問題を AI で解いてみる（難） ・生成 AI に関する問題を調べて、解決策を提案してみる（易） ・生成 AI またはその他の AI の仕組みについて調べ、提案してみる（かなり難） ・PM に関する課題を調べ、提案してみる（易～やや難） 「モチベーション」「チーム編成」「リスクマネジメント」, 「CCPM」, 「システム理論, SECI モデルやイノベーションと PM の関係」, 「PPPM」とか ・あとは相談により DS 関連ならば何でも良い（教員のわかる範囲） ・進め方 ・スライドを使ってプレゼンをするとかは無いですが、知識を広めるために全員で個々のテーマを題材にして一緒に調べ、議論をします ・卒研なので、知識を広めること、正しい日本語が書けるようになることが大切 ・検索のための PC 持参は必須。AI も活用します ・就職指導 ・大学は就職予備校ではないのですが、将来を考えることは大切でしょう ・世の中には良い会社も、悪い会社もあるのですが、文字で表すと問題になるの

	で、ゼミの中限定で口頭でいろいろと話していきたいと思います ・就職は先ずは自分の自覚が第一ですが、卒論のテーマの早期決定や業界の話し、エントリシートの添削などは、随時行っています ・まじめに、丁寧に勉強する気があり、ちゃんと社会に出て活躍する気のある人（大学院含む）には向いていると思います。 一方で、卒業できたらいいなとか、単位取れなければ退学すればいいやとか思っている人には大変なゼミかもしれませんね。
--	--

ゼミナール紹介

担当者名	西尾 好司
e-mail アドレス	Knishio3@bunkyo.ac.jp
研究室	3403
在室曜日・時限	
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	2 年次開講科目：情報社会のビジネスモデル 3 年次開講科目：情報と企業のイノベーション（新カリキュラムでの科目名：イノベーションのマネジメント）、企業と社会における問題の発見と解決、ビジネス発想法
2026 年度担当科目	情報社会のビジネスモデル、情報と企業のイノベーション、企業と社会における問題の発見と解決、ビジネス発想法、プレゼンテーション技法、ビジネス創成とデータサイエンス、ゼミナールⅠ・Ⅱ、卒業研究Ⅰ・Ⅱ
授業概要	1. 3 年次ゼミナールの目標 3 年次のゼミ（ゼミナールⅠ及びⅡ）では、卒業研究のテーマ・方向性を定め、文献や統計データなど基本的な情報の収集・調査に着手し、研究対象とする組織や市場の全体像を理解できるように進めます。 2. 3 年次ゼミナールの進め方 （1）ゼミナールⅠ ・新製品やサービスの開発、ビジネスモデルなど、企業によるイノベーション活動をテーマとした文献の輪読を行います。 ・輪読を通じて、取り上げた論文（研究）の問題意識に関する重要な項目、関連する研究、情報・データの収集方法などを学びます。 ・卒業研究のテーマ・方向性を固める作業に着手します。 （2）ゼミナールⅡ ・春学期に、ある程度固めたテーマに基づき文献資料の調査を進め、4 年次に行う卒業研究のテーマ・方向性を確定します。 3. 3 年次ゼミナールの内容 ・輪読や議論を通じて、イノベーション（画期的なサービスや製品の開発）や DX によるビジネスモデルの構築・変化、ベンチャービジネスや新事業の創成など、現代のビジネスにおける重要なテーマへの理解を深め、企業の活動や製品・サービス開発に関する知識を得られるようにします。 4. 卒業研究のテーマの対象範囲 ・このゼミでは、企業の活動（サービス・製品の開発やビジネスモデル等）を主な対象とし、国のイノベーション支援策や地方自治体の地域振興策も対象に含めます。 ・なお、テーマは学生と相談して決めていくことにしております。

ゼミナール紹介

担当者名	西川和
e-mail アドレス	nishikaw@bunkyo.ac.jp
研究室	3302
在室曜日・時限	火曜日と水曜日の昼休み(図書館などにいることも多いので、事前に連絡をいただくと助かります)
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	司書課程各科目
2026 年度担当科目	図書館概論、図書・図書館史、データベース入門、情報表現演習、情報サービス論、情報サービス演習、プロジェクトマネジメント演習 II、データモデリング、ゼミナール、卒業研究
授業概要	本ゼミナール担当者の研究範囲は図書館情報学、書誌学、デジタル人文学です。 ゼミでは3年の春学期では各自が興味を持った文献を読んでまとめ、疑問点を見出し、関連文献を見つけて、更にそれをもとにほかのゼミ生からもコメントをもらいながら議論することを通じて、最新の研究を把握します。秋学期は卒業論文に向けて、春よりも明確な方向性をもって議論をしていくことになります。4年ではそれまでに得た知識をもとに卒業論文執筆に向けた調査を進めていきます。 論文を探し、読み、まとめることは授業時間外に各自で取り組んでもらいます。個人で文献と向き合う時間を多くとるため、地道に努力をする学生や文章の読み書きを好む学生には向いています。逆に言えば文章を読み書きすることができない学生、自分で作業を進めることができない学生には向いていません。

ゼミナール紹介

担当者名	松本修一
e-mail アドレス	shuichi@bunkyo.ac.jp
研究室	1115 研究室
在室曜日・時限	金曜以外はほぼ毎日いると思います
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	配属後に個別に指示をします。2年生までは特に拘りはありません。
2026 年度担当科目	社会システムモデリング、情報社会における都市計画、不確実性とリスクのマネジメント等
授業概要	交通関係の専門書および研究論文を交替で読む輪講および各自が教員とともに相談しテーマを決めて行う研究の2つを並行して行うことを予定しています。このような専門的な研究経験を通じ、今後社会に出る際必要とされる、<u>論理的思考能力、プレゼンテーション力など様々な素養を身に付けることが出来ます。</u> SPI 対策、エントリーシート作成指導、インターンシップ先の紹介など<u>就職対策</u>に関して学内トップクラスの実績があります。 また、国交省、北海道大学、埼玉大学等との大型研究プロジェクトの代表者なので、<u>プロジェクトの研究費による調査出張（学生は無償）に同行することもできます。</u> ※26 年は、北海道、名古屋、福井、島根等に学生を連れて行く予定 研究室の概要は、下記 URL を参考にして下さい。 http://open.shonan.bunkyo.ac.jp/~tslab/

ゼミナール紹介

担当者名	宮崎和光
e-mail アドレス	k.miyazaki@bunkyo.ac.jp
研究室	3208
在室曜日・時限	原則として水曜日・金曜日（面談を希望する場合は、事前にメールで連絡してください）
個別相談など （日時・方法）	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	2026 年度担当科目はいずれも本ゼミナールに関連します。
2026 年度担当科目	人工知能入門、ビッグデータ解析の社会への応用、プロジェクトマネジメント演習 I、人工知能論、プログラミング演習 A
授業概要	本ゼミナールでは、強化学習を中心に、機械学習、深層学習、生成 AI などの人工知能に関する技術やその応用について学びます。人工知能の仕組みを理解するだけでなく、実際にデータやプログラムを扱いながら、人工知能がどのように学習し、判断するのかを実践的に理解することを目指します。 3 年次には、人工知能やデータサイエンスに関する基礎的な文献や事例を学ぶとともに、Python などを用いたプログラミングや、人工知能を利用した簡単なシステムの作成などに取り組みます。その中で、自分が興味を持つテーマや、人工知能を活用して解決してみたい課題を見つけていきます。 卒業研究では、各自の関心をもとに教員と相談しながらテーマを設定します。強化学習、機械学習、深層学習、生成 AI など、人工知能そのものに関する研究はもちろん、人工知能を利用したシステムの開発や、身近な問題・社会の課題への応用も研究対象とします。自分で問題を見つけ、人工知能を使ってどのように解決できるかを考え、実際に試しながら卒業研究としてまとめていきます。

ゼミナール紹介

担当者名	吉田 知加
e-mail アドレス	cyoshida@bunkyo.ac.jp
研究室	3312
在室曜日・時限	火曜 5 限 または 木曜 3 限・5 限 ○事前にメールにて連絡願います。
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	企業活動と情報システム，プロジェクトマネジメント，システム分析，調査集計法Ⅰ・調査集計法Ⅱ，社会調査特論，社会調査演習Ⅰ・Ⅱ (選択テーマによる)
2024 年度担当科目	システム分析，企業活動と情報システム，キャリア研究，プロジェクトマネジメント演習Ⅱ，情報化要求の分析とソリューションの提案，ゼミナールⅠ・Ⅱ，卒業研究Ⅰ・Ⅱ
授業概要	1. ゼミナールの目標 本ゼミナールでは，情報社会での不透明な点を明らかにすること，またはそこにある課題を ICT により解決することをテーマに，卒業論文を完成することを目標とします。その過程で，調査・分析を行い，手法を習得することを授業での目的としています。 2. 研究の主なテーマ 卒業論文のテーマは，学生が個々に選択し，教員と相談の上，決定します。テーマは，教員の専門分野か、目標に沿う適切なテーマである必要があります。推奨する分野は以下のとおりです。 (1) 情報システムの開発方法と開発マネジメント 企業活動・社会活動の支える情報システムを，開発する（制作する）立場で考えます。不確実性の高い今日では，開発中にも，変更への柔軟さと対応の迅速さが求められ，生成 AI を活用しながら，反復型やアジャイル型開発手法により顧客に価値を提供できる開発方法が不可欠となっています。研究を通じて環境や経営の変化に対する情報システムの役割を考えていきます。 (2) 実社会での情報システム 今日の社会では，金融業，製造業，小売業，農業，建設業，電気・ガス等社会公共事業，福祉事業など，多くの業種の企業が活動を営んでいます。研究では，一つの業種・業態に焦点を絞り，そこにある課題を情報化により解決する方法を探ります。 (3) その他 情報社会の課題に対して ICT による解決策を提案することで，社会，企業，ユーザーに「役に立つ」テーマを選び研究として推進します。 3. セミナールで習得する調査分析手法 【定量分析】・ネットリサーチ (Freeasy) でのアンケート作成と実施方法 ・相関分析 (Excle/ R Studio), t 検定 (Excle/ R Studio), 重回帰分析他 (Excel/SPSS) 【定性分析】・インタビューの実施方法とテキストマイニング (KH コーダー) 4. メッセージ ・チームワークを培う機会として，ゼミ合宿を実施します。2018 年度より神戸の IT 企業訪問，理化学研究所でスーパー・コンピュータ「富岳」見学を体験しています。 ・「情報システム開発に関する研究」，「情報社会の課題解決の提案」は，就活でも，企業に就職してから直に役立つテーマです。 ・一緒により良い情報社会を提案し築いて行きましょう。